

経営比較分析表（令和6年度決算）

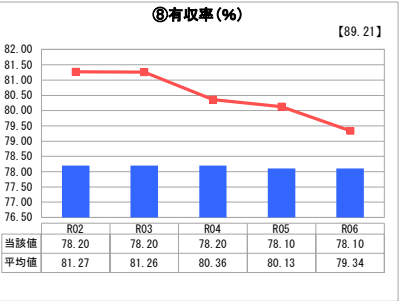
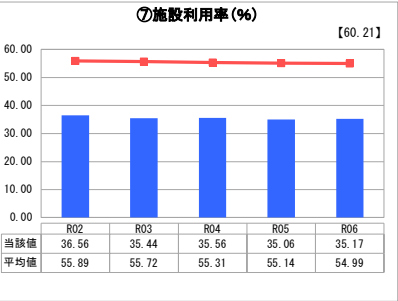
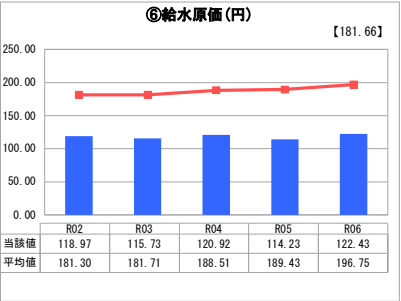
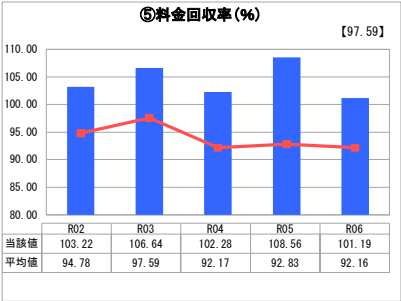
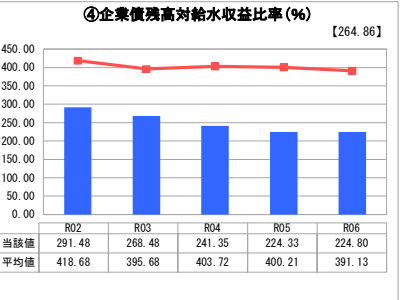
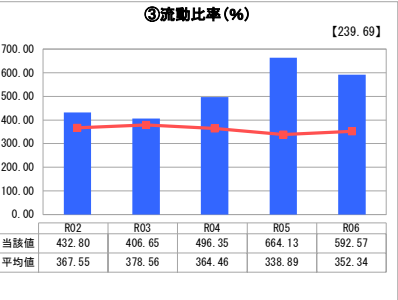
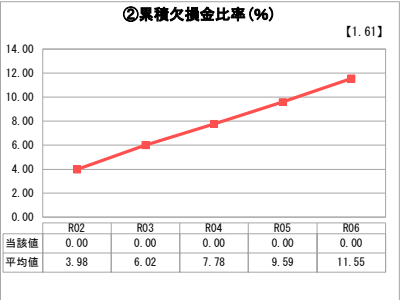
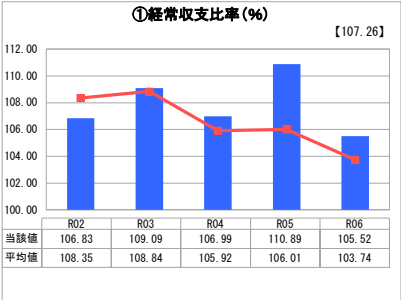
群馬県 みなかみ町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20㎡あたり家賃料金(円)	
-	79.72	96.46	2,470	

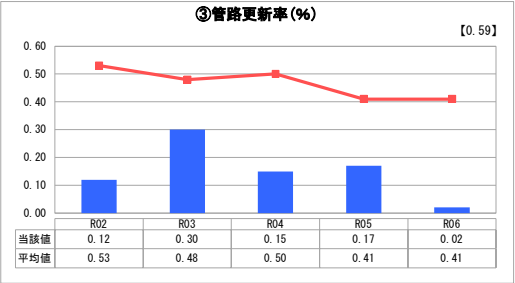
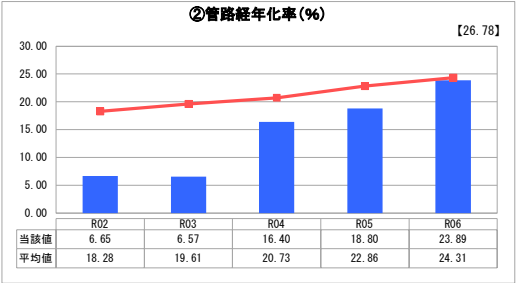
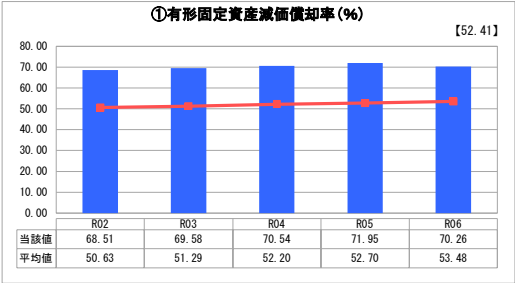
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
16,954	781.08	21.71
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
16,204	205.51	78.85

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【 令和6年度全国平均】

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①今年度は、物価高騰並びに給水範囲拡張による施設の新設等により光熱水費が増加。量水器の一斉交換も重なったことで経常経費が増大し、経常収支比率が低下。年度間の平準化も考慮しつつ社会情勢に注視しながら費用削減に務める。

②累積欠損比率は0%であるが、経営の根幹である給水収益は減少傾向にあり、今後も大きな増加は見込めない。施設の老朽化は著しく、今後も維持管理費の増加は避けられない。長期的な視点で計画的な施設管理を行う。

③流動比率は、両平均値を大きく上回り、高い状況で推移している。未収金の増加が懸念材料ではあるが、資金運用の効率性を計りながら安定した事業経営を継続する。

④企業債残高対給水収益比率は、両平均値より低い状況で推移しているが、必要な更新事業を先送りしていることが否めない。有利な企業債を活用し適切な更新投資を行う必要がある。

⑤料金回収率は、両平均値より高くかつ100%超を維持している。将来の設備投資や維持管理の財源確保に繋げる。

⑥給水原価は、両平均値より低い状況で推移しているが、給水面積が広く、施設が広範囲に点在しているため地理的に非効率な条件下にある。施設も老朽化が進んでいることから、費用対効果を考慮しつつ適切な維持管理を継続する。

⑦施設利用率は、両平均値より低い状況が続いている。今後の更なる給水人口減少等を鑑み、各施設の統廃合、施設規模の見直しが必要である。

⑧有収率は、両平均値より低いまま横ばいの状況が続いている。漏水修理等は諸じているが大規模な漏水対策が必要であり、実施方法が課題となっている。

2. 老朽化の状況について

老朽管更新計画を策定しているが、資金面等課題が多く計画どおりの事業実施に至っていない。施設利用率も低い状況のまま推移しており、水需要減対策や漏水の解消が早急に必要である。

加えて毎年、耐用年数を経過した施設も増え続けている。各施設の維持管理に配慮しつつ、優先順位に沿い緊急性の高いカ所から更新を進めているが、現状に追いついていない。

特に今年度は、管路の新設延長工事や機械及び装置の更新を優先的に実施したことで、目立って管路更新率が低くなった。

全体総括

有収率及び管路更新率が低く、有形固定資産減価償却率が高いことから、早急に管路の更新投資を進めていく必要がある。

しかし、給水人口は減少傾向で給水収益の増加が見込めない中、費用は近年の物価高騰や施設の経年劣化で増加傾向にあり、財源確保が喫緊の課題である。

引き続き、水需要の動向を踏まえつつ施設の更新や財源確保の検討を進め、安心・安全な水の持続的供給を図っていく。